



やまだ 議会だより

シリーズ 家族の笑顔

柳沢地区在住の古屋敷さん家族。
町への提言、思いを伺いました。
(関連記事P16)

No. 178

2023. 2. 1発行
岩手県山田町議会

12 月
定例会

山田小新校舎 建設工事を可決 - 2 P

町政を問う (8人が一般質問) - 4 P

議会活動レポート - 13P

新たな学び舎 建設へ

12月 定例会の あらまし

令和4年12月定例会は12月13日から15日まで3日間にわたって開かれました。町長提案の議案18件を審議し、全て原案のとおり可決しました。(2〜3ページ)

一般質問では8人の議員が登壇し、活発な議論が行われました。(5〜12ページ)

定例会の議案審議や一般質問での質疑全文を記録した会議録は、3月下旬ころから、議会ホームページ、町立図書館で閲覧可能となる予定です。



1



2



3

山田小新校舎 建設工事を可決

山田町立山田小学校
の新たな校舎及び運動
場等を建設するため、

「山田町立山田小学校
新校舎等建設工事の請
負契約の締結に関し議
決を求めることについ
て」の議案が提案され、
原案のとおり可決しま
した。

▽構造規模

鉄筋コンクリート造
一部木造及び鉄骨造
2階建て

▽工期

4年12月16日
〜6年3月22日

▽請負契約金額

24億2千万円

▽受注者

橋本店・佐々木組特
定共同企業体
代表者 株式会社橋
本店盛岡営業所(盛
岡市)

▽敷地面積

23993・10平
方メートル

▽建設予定場所

山田町織笠地内

■工事の概要

構成員 株式会社
佐々木組(一関市)

※この号の金額の記載は、個別の記載がない限り全て1万円以下切り捨てです。

定例会の主な議決議案の内容

定例会で議決した主な議案の概要をお知らせします。どの議案も原案のとおり可決しました。

堆肥センター 指定管理者を決定

山田町堆肥センターの指定管理者の指定について、可決しました。

▷ 指定管理者

農事組合法人エコファーム山田

▷ 指定期間

5年1月1日～7年12月31日

一般会計補正予算（第5号）可決

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金関連事業や、出産・子育て応援給付金事業の実施、人事院勧告にともなう人件費や高騰する電気料金などへ対応するため一般会計補正予算（第5号）が提案され、可決しました。

これにより、補正後の一般会計予算の総額は、歳入歳出ともに127億8557万円となりました。

臨時会のあらまし

第2回臨時会は、11月10日に開かれました。

町長提案の議案3件を審議し、全て原案のとおり可決しました。

新・道の駅 厨房機器 購入

（仮称）新・道の駅「やまだ」での商品販売や飲食提供のため、産直店舗・厨房室等に設置する冷蔵・冷凍機器を買い入れすることについて、可決しました。

▷ 取得金額

3080万円

▷ 数量

一式

▷ 受注者

ホシザキ東北株式会社 宮古営業所



①	新校舎の外観 イメージ画像
②	学校図書館 のイメージ 画像
③	多目的スペー スのイメージ 画像

表紙写真募集

議会だよりでは表紙写真を募集しています。詳しくは町ホームページをご覧ください。

定例会のおしらせ

次の定例会は 2月10日（金）に開催される
予定です。お気軽にお越しください。

ここが
聞きたい

一般質問 町政を問う 8人登壇

12月定例会での一般質問は、12月13日と14日の2日間に行われ、8人の議員が一般質問をし、活発な議論が展開されました。

質問議員 (質問順)	質問事項	掲載 ページ
昆 清	○安全・安心な町づくりについて ○今後の危機管理体制について ○人口減少問題について ○観光について ○陸上養殖の可能性について ○送迎バスの置き去り事故について	5
阿部 吉衛	○防潮堤について ○公共施設について ○観光について ○地域安全対策について	6
木村 洋子	○新型コロナウイルス感染症について ○新しい公共交通の導入について ○高校生の医療費現物給付について ○コロナ禍、物価高騰について ○「気候危機」打開について ○AEDの設置について	7
横田 龍寿	○三陸鉄道の実施事業について ○みどりの食料システム戦略について ○町有施設予約について ○学習塾代等助成事業について	8
黒沢 一成	○マイナンバーカードの交付状況について ○役場職員数の現状について	9
佐藤 克典	○町道の整備について ○旧荒川小学校の利活用について	10
関 清貴	○山田高校の存続について ○携帯電話の不感地帯について ○子どもの居場所づくりについて ○産業振興について ○町道の維持整備について	11
豊間根 信	○新・道の駅今後の展開について ○町内経済活性化策について ○コロナ禍による子どもたちへの影響について	12

一般質問とは、議員が町の行財政全般にわたり、事務の執行状況や将来に対する方針などについて所信を聞き、報告や説明を求め疑問点をたずねることです。議員の質問時間は1人20分以内で、町側の答弁時間は含みません。紙面の都合上、掲載できなかった一般質問は、3月下旬ころから議会ホームページ、図書館で閲覧可能となる予定です。

問 水門・防潮堤の進捗は しんちよく

答 本体工事は完成



議員 清 新 生 会 員
きよし こん 昆

問 岩手県は、東日本大震災の被害を踏まえ、先頃「千島海溝・日本海溝を震源とする巨大地震」について「津波浸水想定」を発表したが、当町の東日本大震災以後に建設を進めている水門や防潮堤の進捗はどのようになっているか。県は津波浸水区域を示したが、県工事が遅れているのはどのような原因によるものか、また完成はいつ頃になるのか。

佐藤町長 本町の水門や防潮堤についてはすべて完成している。県工事が遅れている原因については、工事を担当する宮古土木センター及び宮古水産振興センターを確認したところ、

想定外の支障物による基礎工事の工法変更や、隣接する別事業との調整対応等によるものである。いずれの施設も現時点において本体工事は完成しており、付帯工事についても本年度末の完成を目指している。



残る工事も早期完成を

問 今後の危機管理体制は

答 学校・集会施設などが指定

問 冷戦時代に、核戦争の脅威を身近に感じたヨーロッパの国々には、地下避難施設や核シェルターが完備され、地下鉄や地下施設を防空施設として活用できるように工夫されているようだ。日本全国には9万4125カ所の避難に活用できる施設があると報道見たが、具体的にはどのようなもので、仮に町が攻撃を受けた場合、避難に活用できる場所や施設は何力所あるか。

町長 武力攻撃事態等が生じた場合における避難施設は、国民保護法により都道府県知事が指定することとされており、本町では、現時点で、学校、旧学校施設や集会施設など18カ所が指定されており、これらの施設を町ホームページで公表している。

問 陸上養殖の可能性は

答 未利用地の活用手法の一つ

問 例えばバナメイエビは、世界的需要が見込めると思うが、東日本大震災後の復興事業によって生じた未利用地を使った陸上養殖は可能か。

町長 バナメイエビの陸上養殖の可能性について、バナメイエビは身近な食材であり、世界的な需要が見込まれる魅力的な食材であると認識している。未利用地の活用手法の一つと考える。

その他の質問

- ◆ 人口減少問題は
- ◆ 観光の対策は
- ◆ 送迎バスの置き去り事故対策は

問 防潮堤上部に転落防止柵を

答 安全対策を県に要望



あべよしえ 議員
阿部吉衛
(新 生 会)

問 防潮堤工事も今年度末までに完了の見込みのようであるが、各防潮堤を見て回ると避難階段や上部に転落防止柵のない箇所が見受けられる。これらについての整備計画はどのように進められていくのか伺う。

佐藤町長 工事を担当する宮古水産振興センターを確認したところ、非常階段については令和4年度末までにすべての漁港海岸において設置を完了する予定とのこと。また、堤体上部は基本的に立入禁止のため転落防止柵は設置しないとのことだが、立入禁止の措置



非常階段の設置が待たれる防潮堤

写真提供 西松建設株式会社

が取られていない箇所も見受けられることから、安全対策を講じる

よう県に対し、要望していく。

問 街灯設置どのように進めるか

答 優先度判断し順次設置

問 町内各地、住宅街においても街灯が設置されず、暗い場所が多く見られる。町では地域安全のため、街灯設置をどのように進めていくのか。

町長 街灯は、夜間における通行の安全を確保するため、交通量の多い道路など、さまざまな要因により事故の危険性のある箇所に設置している。また、地域の皆様から新たに設置の要望があった場合には、現地状況を確認しながら対応に努めているが、今後も道路パトロール

などを通じ、必要性や優先度を判断した上で、順次、設置を進めていく。

問 地域安全対策ということで歩いて回ったところ、街灯が切れている場所があった。担当課においてはどのような対応をしているか。

佐々木建設課長 既設の街灯が点灯していないか確認された場合は、現地確認の上、各地区担当の電気事業者へ連絡し、灯具の交換など、維持管理に努めている。

その他の質問

- ◆ 公共施設の利活用は
- ◆ オランダ島の土砂崩れ対策は



議員 木村 洋子
（日本共産党）

問 「気候危機」強いメッセージを

答 「山田町環境基本計画」を实践

問 地球温暖化などの影響で、豪雨、猛暑による被害が発生しているが、2030年までの町としての環境問題に対する具体的目標と計画を示すべきでは。

佐藤町長 二酸化炭素などの温室効果ガスを要因とする気候変動は、地球規模で取り組む問題である。本町では、昨年度「山田町環境基本計画」を策定し、町

民の皆さんがそれぞれの立場で、環境にやさしい生活を実践していただくよう、広報やまだ5月1日号に掲載し周知を図ったところだ。町としての環境問題に対する具体的目標と計画は、「山田町環境基本計画」をより効果的に実践していき、現在、県が計画改定を進めている「第2次岩手県地球温暖化対策」に

連携・協働しながら取り組みを進めていく。
問 「非常事態宣言」をする自治体が増えている。宮古市を含む百余の自治体で強力なメッセージを発しているが、町としても本腰を入れて取り組むべきでは。

町長 地球温暖化は非常に深い問題で、今に始まったことではない。宣言をすればすべて解決するものではないし、宣言するのはさほど大きな障害はないが、その前に我々が出ることは何か。何が実効性、効果があるのか、ゴミ拾いなど、そういうところから進めていくことが必要。

問 コロナ禍、農業・畜産への支援は

答 町独自に支援金給付



農業、畜産の経営継続に希望ある支援を

問 飼料・肥料などの農業資材の高騰が続き、農家の経営を圧迫している。畜産においては、子牛の価格が下落し、たいへん厳しい状況と聞く。農業、畜産業者の暮らしとなりわいを守るため、町としても支援を行い農業に希望が持てるように

すべきでは。
町長 飼料・肥料などの農業資材の価格高騰対策については、町独自の支援策として農業者に対し支援金を給付している。今後とも、国、県の動向を注視し、必要な対策を講じていく。

その他の質問

- ◆ クラスタ発生状況は
- ◆ 豊間根地区住民 足の確保は
- ◆ 高校生の医療費現物給付は
- ◆ AEDの設置の状況は

問 三陸鉄道に事業提案しては

答 利用拡大と経営安定化に取り組む



よこ た たつ ひさ
横 田 龍 寿 議 員
(政 和 会)



三陸鉄道のさらなる活用に期待

問 三陸鉄道の経営のため、資金面だけでなく事業提案をしていくべきではないか。

佐藤町長 県と沿線市町村で構成する「岩手県三陸鉄道強化促進協議会」と連携し、企画列

車や利用促進を図るための情報発信など取り組んでいる。また、町の独自事業として「三陸鉄道で行くうみねこ丸乗船ツアー」を10月29日に実施し、多くの町民が参加し好評を得た。今後も関係機関と連携し、マイルール意識の醸成・利用促進を図る事業を実施し、利用拡大と経営の安定化に取り組む。

問 先日佐藤町長より「我々沿線の首長の粘り強い交渉により、JRが当初提示した額の約6倍の金額を得た。」との説明があった。JRは継続して支援しているのか。

川守田政策企画課長 現時点でJRの支援は無い。移管協力金として30億円をいただいております。

り、それで三陸鉄道の支援を行っている。

問 JRと連携を密にするためにも再度継続して資金を出すよう交渉して欲しい。

政策企画課長 沿線市町村とJRとで議論・交渉した結果、運営資金として30億円の移管協力を勝ち取った。さらに資金を下さいとは言えないと考えている。

問 先日釜石線沿線自治体の議員から「今後JRが釜石線を沿線市町村に移管する事を想定し、三陸鉄道を注視している。」と言われた。もしもJRが山田線と釜石線を三陸鉄道に移管したいとなった場合にはどのように考えるか。

甲斐谷副町長 宮古か

ら釜石までを三陸鉄道に移管する際も議論、仕分けがあったと聞いている。山田線が移管されると更に経営が悪化する可能性がある。三陸鉄道を支えている構成市町村として、まずは経営を考えなければならぬ。軽々な発言は控えさせていただきます。

要望 三陸鉄道の黒字化、経営努力もそうだが、三陸鉄道と他の事業者とのつながり等で損して得を取って欲しい。

その他の質問

- ◆みどりの食糧システム戦略の内容は ◆町有施設予約をオンライン化しては
- ◆学習塾代等を助成しては



くろ さわ かず なり
黒 沢 一 成 議 員
(無 所 属)

問 マイナカードの交付状況は

答 申請済を含め60%



専用の読み取り機にマイナンバーカードを置くと簡単に受付ができます

問 国は最大2万円のポイントを付与するなどマイナンバーカードの普及を進めているが、本町の交付率は。

佐藤町長 11月末現在で46%。交付前の申請済を含めると60%となっている。

問 交付状況で地方交付税に差がでるのか。

町長 総務省で普通交付税の算定に「マイナンバーカードの交付率」を反映させることについて、検討を進めている。具体的な内容は、示されていないが、情報収集に努め、算定方法等についての確把握していく。

問 保険証として利用するには、医療機関に専用の機材が必要。町内の状況は。

町長 町内でマイナンバーカードを保険証として利用できる医療機関・薬局は、11月末現在、県立山田病院など3つの医療機関、2つの薬局となっている。

問 役場職員数は適正か

答 業務量に対し不足

問 町の人口は震災前と比較すると、25%減少した。そこで何うが、職員数、採用計画は震災前と比較しどうか。

町長 現在の職員数は211人、震災前の平成22年に対し27人の増。職員増の要因は、震災復興期間中の膨大な事務に対応するため、全国の自治体からの応援職員の派遣を受ける一方で、職員の採用を進めざるを得なかったことが挙げられる。その後において

も、複雑・多様化する行政需要を背景に、実態として業務量に対し職員数が不足している状況にある。これまで退職者や業務の状況などを踏まえた必要最小限

の職員採用を行ってきた。人口減少が進む中、規模に応じた職員体制を意識しながら適正な定数管理に努めている。

問 数年で人事異動があるが、業務の引き継ぎはしっかりなされているか。

町長 業務の引き継ぎは、行政運営を円滑に進める上で重要であり、異動の際には業務に支障を来たすことがないよう、その徹底に努めている。また、公務の運営を継続的かつ安定的に行っていく上で、バランスの取れた年齢構成が求められる。退職者数の見直しなどを踏まえ、職員の年齢構成の平準化に努

問 町道八千代・白山線の整備を

答 適切な時期に事業化を図る



議員 藤 克典 議員
（政 和 会）



改良が望まれる町道八千代・白山線

問 町道八千代・白山線の山田北インター登坂車線から南東部約200メートルは道路

幅員が狭く対向車とのすれ違いの時には待機や徐行している状況である。また、道路に併設している用水路は、水量が少ないものの、浸透しにくくよどんでいることから、雑草が繁茂し、病害虫の発生など衛生上好ましくない状況である。このような状況を改善するため、用水路のコンクリートの側溝化、また、山田北インターフル化

後の交通量の増加を見越し、道路の拡幅を図るべきと考えるがいかがか。

佐藤町長 町道八千代・白山線は、ご指摘のとおり用水路などの影響により幅員の狭い箇所が存在しているが、山田北インターフル化に向け、交通量の増加が見込まれることから、周辺住民やインターチェンジ利用者に配慮した道路環境の改善が課題と認識している。今後、現地を調査し、水路等の状況も踏まえ、対応を検討する。

問 事業実施を前提とした検討と捉えたがいかがか。

佐々木建設課長 財源を検討の上、事業化を図りたい。

問 工事着手のめどはいつごろか。

建設課長 フル化整備の進捗状況を見ながら適切な時期に対策を講じたい。



新たな利活用を検討 旧荒川小学校

問 旧荒川小学校利活用の内容は

答 ワークーション等に利活用を検討

問 過日、交流人口拡大への取り組みとして、旧荒川小学校を活用したい旨の報道がなされた。旧校舎を利活用することについては良いことと思うが、町としてどのように考えているのか、その内容について伺う。

町長 テレワークに対応したワークーション施設など、関係人口や交流人口の創出が図られるよう検討を行う考えである。また、災害時の避難所、備蓄倉庫、派遣部隊の宿営拠点等にも活用することとしている。

問 受入れには施設の環境整備が必要である。閉校後は校庭等、雑草が繁茂している。地区の有志で草刈りは行っているが限界がある。何らかの対策が必要である。

川守田政策企画課長 利用者の協力を得ながら適正な管理に努めていければいいと思うがそれには限界がある。今後、状況を見ながら、町としても草刈りの実施など考えていきたい。



せき 清貴 議員
(政 和 会)

問 山田高校の存続の考え方は

答 存続、発展に向け取り組む

問 来年の入学者が20名以下になると次の年から原則募集ができなくなると聞く。町内外に数多くの人材を送り出し、町づくりになくはならない学舎である。残された期間、町民の心をひとつにして存続に向け臨むべきと考えるが。

佐藤町長 「山田高校を創設するなど、本町

唯一の県立高校である山田高校の存続と発展に向け取り組んでいく。山田高校を取り巻く現状と課題、魅力などを町民の皆様と共有するため、広報やまだ12月1日号で特集を組んだ。今後も存続、発展するように関係機関と連携し、取り組んでいきたい。



魅力ある高校づくりが求められる

問 携帯電話の不感地帯調査は

答 国で実施している調査で把握

問 本町の携帯電話の普及率は。

町長 令和3年度、国が行う調査では県で75・1%である。

問 不感地帯の調査は。携帯電話で気象・災害情報を入手している。住民

の安全安心を考え通信会社等と連携し、調査するべきでは。

町長 町は引き続きエリア整備に向けた要望を行っていく。

問 子どもの居場所づくり団体との連携は

答 計画策定の調査結果をもとに検討

問 子どもの居場所づくり、子ども食堂の取り組みについて実施している団体と住民の方々と連携して、良い事業とするための考えは。

町長 令和6年度「第三期山田町子ども・子育て支援事業計画」の策定に向け、子どもの生活環境等に関する調査を実施予定であり、その結果で関係団体の意見を聞き、子どもの居場所づくりも検討する。

問 取り組んでいる団体を支援する考えは。
濱登健康子ども課長 団体の方とは話をしている。その中で課題もお聞きしたので、町では何ができるのか一緒に考えたい。

その他の質問

- ◆ 「学びの塾」の創設は
- ◆ 特産品開発を産官学、高校と連携しては
- ◆ 起業家支援策で魅力発信は
- ◆ トラウトサーモンで漁業振興は
- ◆ 町道維持整備事業の状況は

問 町内経済活性化策について

答 事業継続支援へ施策の展開をする



とよまねまこと
豊間根信議員
(政和会)



町内全域へ経済活性化効果の拠点として
ますます期待高まる道の駅やまだ「おいたすた」

問 今日まで積極的な経済活性化策を展開されてきたことは、町内事業者の方々にとって大変心強く、励まされ希望へとつながってきた事業と評価している。経済の底上げがなかなか感じられない状況においては様々な施策がまだまだ必要と思われる。今後の施策展開について問う。

佐藤町長 長引くコロナ禍やウクライナ情勢

の緊迫化に加え、燃料価格の上昇に伴う物価高騰などにより、町内事業者の置かれる経営環境は依然として厳しい状況にあるものと理解している。これまでも地方創生臨時交付金を活用し事業継続支援をしてきた。今後も経営の安定化と事業継続支援施策を講じていく。

問 新・道の駅今後の展開は

答 地域経済活性化に寄与する施設に

問 工事も着々と進み、町のにぎわいへの拠点として期待が高まるばかりである。これまで町内全域への経済活性化効果の拠点としなければならぬと提案してきたが、現状と課題・今後の取り組みについて問う。

町長 愛称として決定した「おいたすた」の名のとおりカキなどをメインとした新鮮な海産物の提供や、県立山田高校とも連携し飲食メニューや特産品・お土産の開発も進めている。新型コロナウイルス感染症の影響による停滞した地域経済や社会活動の活性化にも寄与するものと考えている。

問 コロナ 教育環境の影響・対策は

答 対策を徹底し通常の学校生活へ

問 依然として長引くコロナ禍において教育環境へどのような影響があるか。また、いじめ・登校拒否・遅刻・早退等の状況及びワクチン接種による後遺症

などの具体的な施策について問う。

佐々木教育長 コロナ禍を原因としたいじめ等の事例は発生していない。ワクチン接種の後遺症による長期欠席

事案は発生していないが、濃厚接触などによる欠席が多く、学習の遅れが生じないよう指導している。

議会活動レポート

9月定例会から12月定例会の間に行った議会活動を報告します。13ページが産業建設民生常任委員会の所管事務調査、14～15ページが総務教育常任委員会の視察研修の報告です。

所管事務調査

(現地調査)

10月14日、産業建設民生常任委員会は、「タブの大島」で知られる船越大島の現地調査を行いました。

船着場と登山道をつなぐ橋が崩落しており、砂浜に船を着けて上陸。担当課から島に生息する野生生物などの説明を受けました。

その後、山頂にある東屋の確認や外洋に面する千畳敷やタブノキ自生地を調査しました。

調査後、結果をまとめ、町政に対し、所有者と協議し今後の船越大島の観光の在り方について検討に努めるよう要望しました。

産業建設民生 常任委員会



担当職員と千畳敷とタブノキを調査する議員

所管事務調査 (現地調査)

10月14日、船越大島の調査の後、令和元年台風19号で被害を受けた復旧工事を行っている準用河川女川(田の浜地区)を調査しました。

工期を延長予定との説明を受けました。調査後、結果をまとめ、町政に対し、工期の延長が常態化していることについて、最善の努力をして当初設定した工期の順守に努めるよう要望しました。



担当職員から説明を受ける議員

愛南町 × ふるさと納税



ふるさと納税は町の
知名度アップにも

町の活性化に繋がる 職員・事業者の連携

愛南町の令和3年度のふるさと納税の寄付額は7億を越えており、4年度の目標寄付額は10億円。特産の柑橘類をはじめ、魚介加工品や菓子類が人気を集めています。しかし、初めから寄付額が高かったというわけではなく、ふるさと応援寄付金のサイトに掲載する写真の見せ方や、言葉の選び方など細部にわたるまで工夫を凝らし、また近隣町村や全国の競合商品の情報収集に積極的に取り組むなどし、寄付額を伸ばしてきました。また、職員の皆さんが事業者の方々のところへ訪問し、特産品の売り込みや商品開発を考えるなど、連携した取り組みを実施しているとのことでした。愛南町では、ふるさと納税をきっかけに、①町への興味関心を高め、観光客の誘致や関係人口を増やすこと②特産品の魅力を知ってもらい通常の購買を促進させ地域の生産力をアップすることを目指しています。

インターネット上においては地域の格差はないので、積極的かつ効果的な「町の魅力や特産品の発信」が求められます。本町においても、町の活性化につながるような工夫を凝らした取り組みが求められます。

松山市 × 防災



説明を受け質問する委員

大切な命を守るための防災力

阪神・淡路大震災のときよく言われていたのが「自助（一人ひとりが自分の命や生活を守るための活動）7割、共助（一人ひとりが隣人等と協力して地域を守る活動）2割、公助（行政が実施主体となる活動）1割」だったといいます。松山市では自助・共助の役割がとても重要と認識し、市内全域での自主防災組織の結成を促進してきました。今では100%を達成しています。

また自主防災組織の結成だけでなく、南海トラフ巨大地震等の大規模災害に備えるため、地域の防災力向上につなげる取り組みが多く行われています。その一つが、市民の防災士の取得です。自主防災組織の推薦という条件のもと、防災士の資格取得に必要な経費を全額公費で負担しています。全国初のこの取り組みは平成17年から始まり、今では全国一の防災士数を誇っています。年間の防災訓練や研修の参加者は年々増加し、一人ひとりの防災意識の向上につながっています。

東日本大震災から11年が過ぎましたが、あの日の出来事は忘れることなく、私たちの心に生きています。ですが、震災当時を知らない子どもたちも多くいます。近年、災害は複雑化し、全国各地で毎年大きな被害が発生しています。いつ発生するか分からない災害に一人ひとり対応できるよう、防災への取り組みが必要です。

本町では、総合防災ハザードマップが昨年、各家庭に配布されました。また、やまだ防災だよりでは避難所情報や防災情報アプリの活用等、防災に関する情報の周知徹底がなされています。情報の周知だけでなく、どういった防災の取り組みを町では展開していくのか、引き続き調査していきます。

今後の委員会の動き

本町のSDGs事業や防災、ふるさと納税の現状や課題について、委員会では調査を進めていきます。調査後の内容等については、議会だよりで報告していきます。

総務教育 常任委員会

視察研修を実施しました

総務教育常任委員会は昨年11月、愛媛県松山市と
愛南町の視察研修を行いました。

視察の内容は「持続可能な開発目標（SDGs）の
取り組み」「ふるさと応援寄付金」「防災」の3点です。



愛南町×SDGs 廃棄する野菜や果物でウニを蓄養



ウニが蓄養されているいかだ



ウニの餌は廃棄されるブロッコリーと
愛南ゴールド（河内晩柑）

水産業が盛んな愛南町ではきれいな海を保つため、
環境に配慮した様々なSDGs事業を実施していま
す。海洋プラスチックごみ対策など6つのプロジェ
クトを推進しています。

その1つに「愛南町海の森ブルーカーボンプロジェ
クト」があります。藻場の造成や再生、養殖事業を実
施するものです。磯焼けや赤潮、海水温の上昇など、
海には様々な問題があります。愛南町でも、磯焼け
が課題でした。そこで磯焼けの原因であるウニ（ガン
カゼ）を駆除し藻場再生に取り組みました。駆除した
ガンカゼは、いけすで籠に入れ蓄養し販売します。
与える餌は、特産品のブロッコリーと愛南ゴールド
（河内晩柑）。廃棄される茎や葉、落果を使用してい
ます。低コストで実施でき、環境面も考えられ、ウニ
も餌も無駄にしない取り組みを見ることができまし
た。また、ガンカゼを捕獲し蓄養したことで、藻場が
再生したところもあるとのことでした。

本町でも海の恩恵を受け生活しています。きれ
いな山田の海を、次の世代につないでいくような取
組みを実施していかなくてはなりません。今後も委
員会では、水産だけでなく環境など多岐にわたる分
野におけるSDGs事業の推進について、引き続
き調査していきます。



籠の中でウニが餌を食べる様子



ウニッコリーという名で製品化されている

みんなの「声」

Vol.20

町民の皆さまからの町への提言、思いなどを紹介します。表紙(1ページ)に登場いただいた家族にお話を聞きました。

柳沢地区在住の古屋敷(ふるやしき)さん家族
 寿謹(としのり)さん(右上)
 光(ひかり)さん(左上)
 富(あやめ)ちゃん(3歳・長女)(左下)
 大志(たいし)くん(5歳・長男)(右下)

3年ぶりに山田祭開催 今後も観光業に力を!

町の良いところは山や海などの自然に囲まれ、食べ物が美味しいです。人と人のつながりがあるあたかい町だと思えます。

町に望むことは町の方達が安心して過ごせるように医療と福祉の充実をお願いしたいです。また、町の方達の協力もあり3年ぶりに山田祭が開催されました。今後も観光業にも力を入れ、活気のある町であり続けてほしいです。

子どもに望むことは思いやりと感謝の気持ちをもって、元気にのびのびと育ってほしいと思います。

傍聴席からひとこと

山田高校生の「声」

山田高校の3年生が12月定例会を傍聴しました。そこで、3人の生徒に傍聴してみた感想を伺いました。

山田町のことを考えるきっかけに



佐々木 晃耀さん

一人一人の議員が、山田町の未来について短い制限時間の中で質問提案をしている姿や、役場の方々が真剣に答弁している姿が印象に残りました。私は4月から山田町を離れることになりましたが、山田町のことを考えていこうと思いました。

熱を帯びた議論に緊張



三上 結菜さん

今回議会を傍聴して、会場の張りつめた雰囲気や熱を帯びた議論に私自身も緊張しました。私も積極的に町のためにできることをしようと思いました。

議会の緊張感に圧倒



眞田 優佳さん

初めて議会を傍聴し、議会の緊張感に圧倒されました。議員の方々や役場職員の方々、真剣に山田町の将来を考えて議論する姿を見て、私も協力できることはしたいと思いました。

No. 62

あとながき

▼新型コロナウイルス感染症の終息の兆しが見えない状況が続いており、柳沢地区においては、新・道の駅建設工事も始まり、7月オープンに向けて着々と作業が進んでいるところ。▼一方で、地域住民による自治会組織の設立に向けた取り組みも進んでおります。環境美化活動、防災活動、親睦活動など、さまざまな活動を住民同士が相互に協力、連携して取り組む組織づくりを協力していきます。▼私も議会広報委員になりさまざまなことを学ばせていただきました。今後とも同僚議員の方々と共に頑張りますのでよろしくお願いたします。(阿部吉衛)

発行責任者

議長 毘 暉 雄

議会広報編集特別委員会

- 委員長 菊 地 光 明
- 副委員長 阿 部 吉 衛
- 委員 阿 部 幸 一
- 委員 豊 田 龍 一
- 委員 横 田 幸 一

やまだ議会だより No.178 令和5年2月1日発行 発行/岩手県山田町議会 編集/議会広報編集特別委員会 編集 No.193-82-3111(内線511) FAX0193-82-4989 ホームページアドレス http://www.town.yamada.iwate.jp/chousei/gkai/